

7.29 現在
敬称略



基調講演

東京 大阪 オンライン

森友 浩史

質疑応答あり

文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）

プロフィール 平成7年文部省（現文部科学省）入省。文部科学省大臣官房及び各局での勤務に加え、徳島県教育委員会で勤務。文部科学省では学校教育官、大学設置室長、教育改革推進室長、スポーツ政策企画室長、法令審議室長、教科書課長、幼児教育課長、財務課長などを歴任。（独）教職員支援機構審議役、文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官、同省大臣官房文部科学戦略官を経て、令和6年7月11日より現職。

メッセージ 講演タイトル「高等教育政策の現状と今後の方向性について」

少子化の進行や世界情勢の激変に加え、コロナ禍で価値観や生活様式が変わるなど社会が大きく急速に変化している中、我が国の高等教育も大きな転換期にあると言えます。こうした状況を踏まえ、昨年9月、2040年以降の将来を見据えた高等教育の目指すべき姿などについて中央教育審議会に諮問しました。審議においては、教育研究の「質」の更なる高度化、高等教育全体の適正な「規模」の確保、地域における高等教育への「アクセス」の確保の3点を中心に、設置者別・機関別のあり方、高等教育機関や学生への支援策のあり方も含め、多角的に議論を進めていただいています。こうした議論の状況や見通しを中心に、学修者本位の教育への転換や大学入学選抜などの動向についてもご説明します。



特別講演②

東京 大阪 オンライン

吉田 壘

東京大学大学院工学系研究科
附属国際工学教育推進機構 准教授

プロフィール 東京大学大学院工学系研究科 准教授。東京財団政策研究所 主席研究員。博士（科学）。専門は教育工学、生成AI、アクティブラーニング、オンライン学習、ファカルティ・ディベロップメント。東京大学教養学部特任助教、東京大学大学総合教育研究センター特任講師を経て、2020年より現職。意見交換プラットフォーム「LearnWiz One」を学生と開発し、世界最大のEdTechコンペティションGES Awards 2021 研究開発部門にて優勝。

メッセージ 講演タイトル「生成AIが変える教育の未来ー可能性と課題を探る」

ChatGPTをはじめとする生成AIは教育にも大きな影響を与え始めています。様々な作業を行ってくれるため、学習者にも教職員にも活用する可能性がある反面、必ずしもその作業が正しいとは限らなかつたり、不正に使われる可能性があったりと課題も多く存在します。そこで、参加者のみなさまが生成AIに関する理解を深め、活用の可能性を探れるよう、本講演では生成AIに関する基本に加え、具体的な事例も含めた説明を通して、生成AIの可能性と課題を探ります。



特別講演①

東京 大阪 オンライン

奈須 正裕

上智大学 総合人間科学部教育学科 教授

プロフィール 東京大学大学院教育学研究科修了、博士（教育学）。国立教育研究所教育方法研究室長、立教大学文学部教授等を経て、2005年より現職。中央教育審議会教育課程部会長。専門は教育心理学、教育方法学。著書に『資質・能力』と学びのメカニズム（東洋館出版社）、「次代の学びを創る知恵とワザ」（ぎょうせい）、「個別最適な学びの足場を組む」（教育開発研究所）など。

メッセージ 講演タイトル「社会に開かれた教育課程」

社会に開かれた教育課程、現行学習指導要領の基盤となった理念の一つです。では、教育課程を社会に開くとは、具体的にどういうことでしょうか。変化の激しい、予測困難な時代に遅れをとらないよう、キャッチアップすること。もちろん、それもあります。しかし、学校は社会に追いつくだけの存在なのではないでしょうか。また、短期的な社会の変化に対し比較的安定に思える教科の学習指導については、どう考えればよいのでしょうか。学校と社会との関係を考えることは学校教育の、さらにはその担い手である教師の存在理由を考えることでもあります。今こそ、みなさんの足元を確かなものにしていきましょう。



英語

東京 大阪 オンライン

安河内 哲也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

プロフィール 中学生から社会人までの英語力を劇的に向上させることで定評がある。著作の累計は350万部超。検定教科書「My Way 論理表現」代表著者。各種教育機関や、試験機関において、講演や監修等の業務を行っている。また、文部科学省や東京都の英語教育関連審議会の委員も歴任。iU情報経営イノベーション専門職大学客員教授。米国政府認定NPO英語評価学会理事。多くの中学・高校の顧問としてActive English Programを実践。

メッセージ 皆さん、生成AIを活用していますか？生徒たちよりも、まずは自分が活用することが大切です。今回は生成AIを活用して魅力的な授業素材を作る方法や自分自身が英語を勉強する方法をたっぷりシェアします。いままであまり使ったことがない方でもわかるように初心者向けの内容とさせていただきます、すぐに授業で使える技をたくさん紹介します。この1年、言語教育の世界は、生成AIによって様変わりし、シンギュラリティを越えたと言われていています。では人間は何をやれば良いのか？この講座で見えてくると思っています。他教科の先生もAIに興味があればご参加ください。



数学

東京 大阪 オンライン

鶴迫 貴司

東山中学・高等学校 教諭

プロフィール 学校現場や他府県の教育・数学セミナーでは、数学の面白さ美しさをはじめ、知識と技能がどのように変異し社会に利用・還元されているのかを提供し、大学では、高校と大学数学のギャップを補う講座を担当するなど、生徒・学生・先生方からの定評がある。最近、学習指導要領の改編に伴い、月刊誌『現代数学』では、学びの道標となる数学的観点のつながりとなる数学的活動の具体的な事例を述べ、近著に『数学のエッセンスと問題演習①（現代数学社）』があり、多彩な活動をしている。

メッセージ 学校教育を「ある問いを通して他者と自分が互いにつながり深めるための行状および、教育をうけるまたはする者にとって、前にすすむための行状」とするとき、数学を学ぶ教えるということ、どのようなことが実現・成満できるのかを先生方と一緒に考えたいと思います。普段、私が教壇に立たせて頂く際、教科書をはじめ様々な教材から得られる数学的なエッセンスを、どのように広げ、そしてそれらが日常や社会でどのように活用されているのかを、いくつかの事例をもって話をさせていただきます。また、今年は、例年とは少し異なる質的観点を加え、数学だけでなく生活・進路指導の内容にも触れ、先生方のお力になれるよう資料を準備させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。



探究

東京 大阪 オンライン

小坂 康之

福井県立若狭高等学校 教諭

プロフィール 福井県立若狭高等学校教諭、博士（生物資源学）。「楽しいから学んだ！」をモットーに、探究的な学習、地域のステークホルダーとの学校づくり、Well-being教育や対話を取り入れた授業実践を推進。職業系および普通科における探究学習のカリキュラム開発に携わり、昨年までは進路部長として探究とキャリアの接続に従事、現在SSH研究部部長。著書に「さばの缶詰、宇宙へいく」（イーストプレス）「宇宙食になったサバ缶」（小学館）、文部科学省優秀教職員、福井県授業名人、優秀教員表彰受賞。

メッセージ みなさま、高校生の開発した鯖の缶詰が国際宇宙ステーションで提供されていることをご存じでしょうか？鯖缶は本校のたくさんの探究活動を示す一つの象徴ですが、生徒の熱心な10数年にわたる研究の裏には、探究学習への転換や教育改革を継続してきた実践があります。今回は、本校の裏（表かもしれない）をお見せします。探究学習を成立させるための、具体的な生徒支援の方法から、土台となる目標設定、教員のコミュニティ形成、研修や組織改革などについて紹介したいと思います。そもそも何のために学んだらうと考えながら皆さんと一緒に会をすすめていきたいと思います。



国語

東京 大阪 オンライン

河口 竜行

和洋国府台女子中学校・高等学校 教諭

プロフィール 桐蔭学園教諭、個人指導塾「河口塾」主宰を経て98年より渋谷教育学園渋谷中高教諭、昨年度より現職。産業能率大学経営学部兼任講師。学びの主体である生徒・学生が、自分の頭で考え自分の意志で行動することのできる自立した存在になることを目指した「対話型授業」を実践中。授業、また各種活動においてコーチングの考え方や手法を活用している。対話型授業・コーチングをテーマとした教員研修講師を多数務める。共編著「シリーズ・学びとピーニング」1～4巻（りょうゆう出版）。

メッセージ 今回は、全体テーマ「教育で日本の未来をつくる」のもと、国語分科会も「私たちはなぜ、なんのために国語の授業をしているのだろう」という、原点に立ち返ってのテーマを設定しました。そもそも私たち教員は生徒にどんな力をつけてほしくて授業をしているのでしょうか。これらについてご参加の皆様と共に対話を行いながら、生徒たちの未来につながる国語授業について意見交換ができればと考えています。もちろん、生徒たちが自分から学びたいという「対話型授業」のすすめ、またその具体的な実践手法についても提示しつつ、ワークショップを進めていきます。



情報

東京 大阪 オンライン

稲垣 俊介

山梨大学 大学院総合研究部
教育学域教育学部附属教育実践総合センター 准教授

プロフィール 博士（情報科学）。東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程修了。山梨大学大学院総合研究部教育学域教育学部附属教育実践総合センター准教授。高校の学校現場にて約20年にわたり情報教育を実践し、2024年度より現職となる。情報処理学会にて情報入試委員会、情報科教員・研修委員会、会誌『情報処理』編集委員会の委員を務める。文部科学省の高等学校情報科教員研修用教材の作成においてWG委員を務め、教科書「情報Ⅰ 図解と実習」（共著：日本文教出版）、「思考力アップ 大学入学共通テスト 情報Ⅰ」（共著：翔泳社）、「情報Ⅰ 大学入学共通テスト対策」（監修：インプレス）などの多数の著作がある。

メッセージ ついに、令和7年度から大学入学共通テストに「情報Ⅰ」が導入されます。これまで大学入試を情報で受験する高校生は少数でしたが、東京大学などの国立大学をはじめ、多くの大学がこの共通テストを導入することを発表しました。今後、多くの受験生が情報入試を受けることとなるでしょう。この変化に対し、不安を感じている先生方もいらっしゃるかもしれません。私自身、大学教員となる前に、約20年にわたり高校で情報教育を実践し、情報教育に関する書籍の執筆や情報処理学会の情報入試委員会での活動を通じて、学校現場の情報教育に深く関わってまいりました。本講演では、情報入試に向けた授業の検討方法について具体的にお話しします。どのように授業を設計し、受験生にとって効果的な学習を提供するか、そのポイントを提案いたします。私の経験とノウハウを共有しながら、皆さんと共にこれからの情報教育について議論し、情報入試に向けた準備を進めたいだけだと思います。よろしくお願いいたします。

7.29 現在
敬称略



基調講演

東京 大阪 オンライン

森友 浩史

質疑応答あり

文部科学省大臣官房審議官（高等教育局担当）

プロフィール 平成7年文部省（現文部科学省）入省。文部科学省大臣官房及び各局での勤務に加え、徳島県教育委員会で勤務。文部科学省では学校教育官、大学設置室長、教育改革推進室長、スポーツ政策企画室長、法令審議室長、教科書課長、幼児教育課長、財務課長などを歴任。（独）教職員支援機構審議役、文部科学省総合教育政策局社会教育振興総括官、同省大臣官房文部科学戦略官を経て、令和6年7月11日より現職。

メッセージ 講演タイトル「高等教育政策の現状と今後の方向性について」

少子化の進行や世界情勢の激変に加え、コロナ禍で価値観や生活様式が変わるなど社会が大きく急速に変化している中、我が国の高等教育も大きな転換期にあると言えます。こうした状況を踏まえ、昨年9月、2040年以降の将来を見据えた高等教育の目指すべき姿などについて中央教育審議会に諮問しました。審議においては、教育研究の「質」の更なる高度化、高等教育全体の適正な「規模」の確保、地域における高等教育への「アクセス」の確保の3点を中心に、設置者別・機関別のあり方、高等教育機関や学生への支援策のあり方も含め、多角的に議論を進めていただいています。こうした議論の状況や見通しを中心に、学修者本位の教育への転換や大学入学選抜などの動向についてもご説明します。



特別講演②

東京 大阪 オンライン

小崎 誠二

奈良教育大学大学院教育学研究科准教授

プロフィール 奈良教育大学大学院教育学研究科准教授。県立高等学校国語科・情報科教員20年、奈良県教育委員会16年、奈良教育大学准教授3年、2024年4月から現職。文部科学省教育データの利活用に関する有識者会議委員。同省学校DX戦略アドバイザー。同省次世代の校務デジタル化実証推進事業生成AIの校務での活用に関する実証研究事業推進委員会座長。著作物の教育利用に関する関係者フォーラム初等中等教育専門WG委員。

メッセージ 講演タイトル「学校の先生は生成AIとどう向き合うべきか」

日々目まぐるしい進化を遂げる生成AI。教育においてもその可能性が目まぐるしく、学校教育に大きな変革をもたらす可能性がある強力なツールであることは誰もが認めることです。昨今の1人の指導者が多数の学習者を教える教育スタイルでは対応が難しく、私たち教師があきらめざるを得なかった、学習者のその時点での力やニーズに応じた学びを支援できるのではないかと、各方面でチャレンジがはじまっています。また、学校教育における校務では、学習素材の作成や事務作業などに活用することで教員の負担を軽減し、より質の高い授業に注力できる環境づくりにも貢献できますし、学習進度管理などの業務を自動化することで、教師の働き方の改善にも繋がる可能性が見えてきました。それらについてみなさんと一緒に考えてみたいと思います。



特別講演①

東京 大阪 オンライン

市川 伸一

東京大学名誉教授、帝京大学中学校・高校 校長

プロフィール 東京大学文学部卒業。文学博士。埼玉大学、東京工業大学を経て、東京大学教育学部を2019年定年退職。中央教育審議会教育課程部会委員として、2回の学習指導要領改訂に関わる。専門は教育心理学。とくに、認知心理学を基盤にした個別学習支援や授業設計などの実践に携わっている。著書に『考えることの科学』（中公新書）、『学力低下論争』（ちくま新書）、『学ぶ意欲とスキルを育てる』（小学館）、『勉強法の科学』（岩波書店）など。

メッセージ 講演タイトル「高校で習得と探究を両立させるには何が必要か」

基礎基本の習得と自発的な探究、教師からの教授と児童生徒の能動的な活動。こうしたバランスをとることは、あたりまえのようでありながら、教育界では振り子のように動きやすい。しかし、ゆとり教育と学力低下論争を経て、前回と今回の学習指導要領はバランスを重視したものになってきた。一方、高校教育の現場は、中教審・文科省の示す方向性よりも、大学入試の制約を強く受けるためにあまり変わらないと言われてきた。理想論だけでは動けず、かといってこれまで通りでよいとも思えないというのが高校の悩みだろう。進学実績と探究の狭間で、これからの高校教育と、それをとりまく環境はどのように変わるのか／変えるべきなのかを考えていきたい。



英語

東京 大阪 オンライン

武藤 一也

東進ハイスクール・東進衛星予備校 講師

プロフィール 英語に悩める生徒から、英語が得意な生徒まで、生徒のやる気に火をつける分かりやすい授業に定評がある。全国模試の作成や参考書の執筆もこなし、英語の学習は「正しく。楽しく。」をモットーに日々奮闘中！「共通テスト英語リスニングドリル（東進ブックス）」をはじめ、「イチから鍛える英語シリーズ（学研プラス）」、学校採用品の「Reading Flash（桐原書店）」など著書多数。英検1級。TOEIC試験4技能（LRSW合計）1390点満点。Cambridge CELTA Pass GradeA。現在はCambridge DELTAに挑戦中！

メッセージ 大阪会場・英語の分科会では、「生徒の考えを上手に引き出す方法」、「効果的な授業構成と伝え方」についてお話しさせていただきます。全国模試の作成や問題集の執筆を通して培ってきた経験と、Cambridge CELTAから学んだことを余すことなくお伝えします。また、Cambridge DELTA取得へ向けた取り組みなど、最新情報も盛り込みます。明日から授業で使えるテクニック満載でお送りします。ご参加をお待ちしております。



数学

東京 大阪 オンライン

酒井 淳平

立命館宇治中学校・高等学校 教諭

プロフィール 立命館宇治中学校・高等学校数学科教諭（キャリア教育部長）。立命館宇治中・高で文科省の指定を受けながらキャリア教育部の立ち上げや探究カリキュラムの開発・実践を行い、その知見を数学の授業にも反映させようと試行錯誤しながら様々な取り組みを進めている。啓林館（新編）教科書執筆者。文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」協力者。著書に「高等学校新学習指導要領 数学の授業づくり（明治図書）」、「探究的な学びデザイン 高等学校 総合的な探究の時間から教科横断まで（明治図書）」、「高等学校 探究が進む学校のつくり方 探究学習を学校全体で支えるために（明治図書）」。

メッセージ 日本人の数学力の高さや、それを支えた数学教育が日本のこれまでを作ってきたことは間違いありません。予測不可能と言われるこれからの時代、数学教育で日本の未来をつくるためにどんな授業が必要でしょうか？わかりやすく要点を伝えるなら動画でも可能ですし、知識の量でAIに勝つことはできません。しかし、好奇心や問いを持つことは人間ならではの力です。対面授業にはその力を引き出す大きな可能性があります。数学を学ぶ意味、数学だからこそ育てることができる力やそうした力を育てる授業のあり方を一緒に考える時間にできればと思います。



探究

東京 大阪 オンライン

濱田 悟

京都市立堀川高等学校 教諭

プロフィール 京都大学大学院工学研究科修士課程修了。2004年から京都市立紫野高等学校勤務。2018年から京都市立堀川高等学校に勤務。2021年から同校研究部部長。同校の総合的な探究の時間である「探究基礎」の責任者を務め、2022年度から実施している新カリキュラムの研究・開発に携わっている。理科教諭として主に物理を担当。

メッセージ 探究では答えが用意されていない問いに取り組むこととなりますが、そもそもの問いが用意されていないことの難しさを感じる人も多いのではないかと思います。探究を進めた経験の少ない生徒にとって、見通しを持ち、難しすぎず易すぎない課題を設定することは非常に難しいことです。堀川高校では令和4年度から、1年生前期で生徒自身の興味・関心から出発し、課題設定に至るまでの試行錯誤を愉しむことを目指した授業を行っています。この授業に限らず、本校における総合的な探究の時間における実践とこれまでの経緯を紹介しながら、探究活動の指導とはどのようなものであるかをみなさんと考えたいと思います。



国語

東京 大阪 オンライン

齋藤 祐

中央大学杉並高等学校 教諭

プロフィール 高等学校国語教科書編集委員（三省堂）。都留文科大学文学部非常勤講師。NHKラジオ高校講座「言語文化」および「論理国語」監修講師。生徒の「学びに向かう力」を喚起する授業を教科教育のなかで実践している。主な著書に、大滝一登・高木展郎編『新学習指導要領対応 高校の国語授業はこう変わる』（2018年）、国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 国語』（2022年）など。

メッセージ 一夜漬けの勉強で手に入れた知識は、翌日になれば跡形もなく消え去ります。昨今話題の生成AIのレスポンスも、現状はその場限りで終わりです。一方で学校は、億劫で面倒で、いつも想定外に満ちた空間のまま。しかし学校が、生徒たちにとって生活の場でもあるゆえに成り立たせてきた、独自の学びのかたちがあるはずです。ここまで培ってきた、われわれの実践の積み重ねを信じましょう。今回は、定番教材を組み合わせた「論理国語」の授業内容を紹介しつつ、これからの国語科の役割について、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



情報

東京 大阪 オンライン

小松 一智

東京都立小平高等学校 教諭

プロフィール 東京都立小平高等学校指導教諭。2005年東京都に情報科教諭として採用。2023年度より大学でも非常勤講師を務める。文部科学省高等学校情報科「情報I」「情報II」教員研修用教材作成WG委員。文部科学省「情報I」「情報II」授業・解説動画「コミュニケーションと情報デザイン」「情報通信ネットワークとデータの活用」「情報システムとプログラミング」に出演（2022、2023）。『情報I』教科書等（日本文教出版）を執筆。

メッセージ ついに今年度から大学入学共通テストに「情報I」が入ります。新学習指導要領が施行され、新たな内容で学んだ生徒が受験することになりますが、みなさんどのような取り組みをされてきたでしょうか。受験生もそうですが、情報を担当するわれわれもまだ本番のテストを見たことがなく不安でいっぱいです。このような状況ではありますが、「情報I」の1年間の流れと3年生の受験に向けた取り組みについて皆さんと情報共有ができればと思っています。